

○ 歌唱共通教材として7つの楽曲が示された理由はどのようなことか。

我が国で長く歌われ親しまれている歌曲を歌唱教材として取り扱うことは、我が国のよき音楽文化を世代を超えて受け継がれるようにする上で大切である。また、生活の中の様々な場面で音楽を楽しんだり、共有したりする態度を養うことにつながっていく。

そこで、「我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの」の観点から取り上げたものを歌唱教材に含めることし、この観点に相応しい7つの楽曲を歌唱教材として示した。

1 歌唱の指導について

学年の「A表現」の(4)のイの(7)の歌唱教材については、以下の共通教材の中から各学年ごとに1曲以上を含めること。

「赤とんぼ」、「荒城の月」、「早春賦」、「夏の思い出」、「花」、「花の街」、「浜辺の歌」

2 各楽曲の特徴やポイントについて

曲 名	主な特徴や指導のポイント
赤とんぼ	日本情緒豊かな曲として、人々に愛されて親しまれてきた楽曲。例えば、拍子や速度が生み出す雰囲気、旋律と言葉との関係などを感じ取り、歌詞がもっている詩情を味わいながら日本語の美しい響きを生かして表現を工夫することなどが考えられる。
荒城の月	原曲と山田耕筰の編作によるものとがあり、人の世の栄枯盛衰を歌いあげた楽曲。例えば、歌詞の内容や言葉の特性、短調の響き、旋律の特徴などを感じ取り、これらを生かして表現を工夫することなどが考えられる。
早春賦	滑らかによどみなく流れる旋律にはじまり、春を待ちわびる気持ちを表している楽曲。例えば、拍子が生み出す雰囲気、旋律と強弱とのかかわりなどを感じ取り、フレーズや曲の形式を意識して、情景を想像しながら表現を工夫することなどが考えられる。
夏の思い出	夏の日の静寂な尾瀬沼の風物への追憶を表した叙情的な楽曲。例えば、言葉のリズムと旋律や強弱とのかかわりなどを感じ取り、曲の形式や楽譜に記された様々な記号などをとらえて、情景を想像しながら表現を工夫することなどが考えられる。
花	春の隅田川の情景を優美に表した楽曲。例えば、拍子や速度が生み出す雰囲気、歌詞の内容と旋律やリズム、強弱とのかかわりなどを感じ取り、各声部の役割を生かして表現を工夫することなどが考えられる。
花の街	希望に満ちた思いを叙情豊かに歌い上げた楽曲。例えば、強弱の変化と旋律の緊張や弛緩との関係、歌詞に描かれた情景などを感じ取り、フレーズのまとまりを意識して表現を工夫することなどが考えられる。
浜辺の歌	浜辺に打ち寄せる波の情景を表すような伴奏に支えられた、叙情的な歌詞と旋律をもつ楽曲。例えば、拍子や速度が生み出す雰囲気、歌詞の内容と強弱の変化との関係などを感じ取り、フレーズのまとまりや形式などを意識して表現を工夫することなどが考えられる。